

平成30年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
林産部門

製炭技術と地域産業を継承する優れた製炭技術者

○氏名又は名称 谷地 司

○所在地 岩手県久慈市

○出品財産物（木炭）

○受賞理由

・地域の概要

久慈市は、岩手県北東部に位置し、総面積の9割が森林であり、民有林の樹種別面積の割合はスギ7%、アカマツ28%、カラマツ4%、広葉樹53%である。この豊富な広葉樹資源を活用した木炭生産が盛んで、生産量全国1位の木炭県岩手においても、最も盛んな地域の1つである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

谷地氏は、（有）谷地林業の木炭製造部門の責任者である窯長として製炭に従事して15年、先輩の技術を引き継ぎ自らも研鑽を重ねてきた。現在、木炭製造部門のスタッフ6名とともに、（有）谷地林業が所有する製炭窯7基を使用して年間約80回の製炭で90tを生産している。

・受賞者の特色

（1）高品質な「岩手木炭」を生産する優れた製炭技術者

大量生産が可能な「岩手大量窯」を使用し、一窯ごとに温度管理を徹底し、煙の状況を観察して窯止めのタイミングを計るなど、原木の選定から製炭・加工・出荷まで、重くて硬い火持ちのいい高品質な岩手木炭を生産している。

また、岩手県木炭品評会において連続6回の最優秀賞を受賞するなど、その技術の高さは多くの人が認めるものであり、平成30年度には地域における築窯・製炭技術の普及・指導の中核となる生産者に与えられる岩手県製炭技士の認定を受け、指導者としても高い評価を得ている。

（2）木炭文化の継承・普及に対する取組

製炭技術を若い世代に引き継ぐため、県内外の学生への炭焼き体験、林業大学の木炭生産講座の講師等、木炭生産の普及教育活動に熱心に取り組んでいる。

また、他の生産者に対する技術指導にも惜しみなく取り組んでおり、製炭技術の継承を通じ、地域産業の維持にも貢献する地域のリーダー的存在となっている。

・普及性と今後の発展方向

その製炭技術は（有）谷地林業の基盤となって経営を支え、地域林業事業体としての信用と岩手木炭のブランド化の発展に大きな役割を果たしてきた。（有）谷地林業では今年度製炭窯を5基増設して高品質製炭事業の拡大を計画しており、ブランド品としての「岩手木炭」の高付加価値化の定着と、地域産業の維持、及びその他の特用林産物の振興等にも好影響を与えることが期待される。